

平成 26（2014）年度 教員活動報告書（1/4）

学部・学科	臨床心理学部・臨床心理学科	職名	講師	氏名	マツモト ヒサヤ 松本 寿弥
学歴	平成 4年 6月 （米国）University of Oregon, College of Arts and Sciences 卒業 平成 5年 9月 京都大学総合人間学部 研究生「平7.3まで」 平成10年 3月 京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程 修了 平成14年 3月 京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程 単位取得後退学 平成14年 4月 京都大学総合人間学部 研修員「平15.3まで」 平成22年 3月 京都文教大学大学院臨床心理学研究科博士前期課程臨床心理学専攻 修了 平成23年 4月 京都文教大学大学院研究生「平24.3まで」				
学位	平成10年 3月 人間・環境学修士（京都大学 第450号） 平成22年 3月 臨床心理学修士（京都文教大学）				
専門分野	心理学				
専門資格	平成23年 4月 財団法人日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士（登録番号第23887号）				
所属学会	平成17年 4月 日本心理学会 平成20年 9月 日本心理臨床学会 平成24年 4月 日本精神分析的心理療法フォーラム学会 平成25年 7月 日本精神分析学会				
受賞					
担当 授業科目	学 部 臨床心理学実践演習（カウンセリングⅠ）、心理学実験査定（初級・中級）、初年次演習、コミュニケーション・スキル演習、臨床観察実習、外国書購読Ⅰ・Ⅱ				
論文指導					
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数	
	外国書購読	講義・演習・実習・実験	春・秋	約45名（春）・約30名（秋）	
	授業の概要： 大学院進学希望者向けの、心理学（心理療法）を英語で学ぶ授業。英語テキスト（Irvin Yalom 「The Gift of Therapy」）を購読・翻訳しながら、著書の内容である心理療法について考える。				
	教育活動の振り返り： 授業は好評であった。英語に対する苦手意識を持つ学生が多い中、英語に馴染み親しめるようになることを心がけた。学生の関心のある心理療法について著者の体験を通してやさしく解説しているテキストを用いることで、英語そのものを勉強しているのではなく、英語を通して心理療法について学んでいる感覚を体験してもらえるように心がけた。毎回感想や質問を提出してもらい、次回にそれに対する回答をする形式をとった。				
	教育活動の成果： 英語に対する苦手意識を克服すること。与えられた内容を覚えるのではなく、疑問に答えるという形式を取り入れることで積極的な学習が促進された。英語と心理療法について同時に学ぶ機会が得られたこと。				
	今後の課題： 授業の進度について、春と秋の学期でテキストを2冊用意していたが、1冊の途中までしか読み進められなかった。丁寧に進めた結果のペースであったが、学生には進度を早めて欲しいと希望する者もいた。逆に進度を落として欲しいと希望した学生もいたので、学生間の実力差を考慮に入れた教え方の工夫が今後の課題である。				

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/4)

F D 教 育 実 績 ・ 活 動	・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 平成27年 2月26日 学内 COC事業教育効果測定に関する研修会「IRの概要と事例 ～中小規模大学が取り組むIRのあり方～」(独立行政法人大学評価・学位授与機構・研究開発部・准教授 森利枝氏)に参加。 ・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 特になし。
H26 年度 研究課題	1. 発達障害児に対する心理教育プログラムの開発・実施・研究 2. 組織心理コンサルテーション研究・実施・訓練プログラムの開発 3. 異文化・多文化心理療法の実施と研究 4. 精神分析的な心理療法の実施と研究
年度 の 研 究 活 動 の 概 要 平成二十六(2014)	1. については、「すきっぷプログラム」を実施した。4月には子ども臨床研究会研修会を実施し、プログラム・アクティビティの発展についての可能性を中心に検討した。 2. については、組織心理コンサルテーションの海外講師招聘研修、中小企業診断士との研究会、訓練セミナーを開発・実施した。組織(企業・病院)に対して実践・調査を行った。 3. については、インターナショナルスクールの特別支援コーディネーターと意見交換した。 4. については、精神分析的な心理療法家の訓練プログラムに参加し、セミナーへの参加と事例提供、実践を行った。
平成二十六(2014) 年度の主な研究成果等	(著書)
	(論文)
	(学会報告、学会活動) 1. 「集団に介入するとき何が起ころのか? ―臨床感覚から生じる今このときの問題意識に基づいて考えるV―」(自主シンポジウム・指定討論)、平成26年8月、日本心理臨床学会第33回大会、パシフィコ横浜 2. 「学生相談に生かす対人関係/関係精神分析的視点Ⅱ ―『面接の構造と連携』を考える―」(分科会・指定討論)、平成26年12月、日本精神分析的な心理療法フォーラム学会第3回大会、立命館大学
	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)
	司会:
	1. 「楽しさの追求を支える福祉レクリエーション ―根拠をもったレクリエーション支援の方法―」、平成26年4月、京都文教大学子ども臨床研究会2014年度研修会、京都文教大学
	講師:
	1. 「組織理解のための概念ツール」、共同、平成26年11月、京都文教大学産業メンタルヘルス研究所組織心理コンサルテーションセミナー「入門 組織心理コンサルテーションの世界」、キャンパスプラザ京都
	事例発表:
	1. 「うつで苦しむ50代男性の事例」、単独、平成26年12月、京都精神分析・心理療法研究所(KIPP)、2014年KIPP対人関係精神分析セミナー「抑うつ」、キャンパスプラザ京都
	通訳:
	1. 「組織心理コンサルテーション:過去の学習と未来への計画」、共同、平成26年4月、京都文教大学産業メンタルヘルス研究所組織心理コンサルテーションセミナー、京都文教大学 2. 「関係性の自由と治療作用(演者:ドネル・スターン)」(公演と討論)、共同、平成26年11月、日本精神分析学会第60回大会、福岡国際会議場 3. 「今、育ちを考える ～米国版IEP(個別的教育支援計画)から見た特別支援～」(公開シンポジウム)、単独、平成26年11月、京都文教大学心理臨床センター・京都文教大学大学院臨床心理学研究科共催、京都文教大学
	(調査活動)
	(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)
	(学内活動) 地域連携委員会委員、地域協働研究教育センター会議委員、COC推進委員、産業メンタルヘルス研究所所員

平成 26（2014）年度 教員活動報告書（3/4）

平成二十六年（2014）年度の社会における活動	（自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の囑託） ・ 東日本大震災緊急派遣スクールカウンセラー（兵庫県臨床心理士会チーム）、於：宮城県南三陸町歌津地区の中小学校「平23.6より」 （自治体や企業における研修等の講師） ・ 社会福祉法人大阪水上隣保館 職員研修講師「平24より」 （その他） ・ 京都文教大学子ども臨床研究会 会長（すきっぷプログラム主催）「平26.4より」 ・ 同志社大学カウンセリングセンター 留学生対応カウンセラー「平23.7より」 ・ 社会福祉法人大阪水上隣保館児童心理療育施設ひびき スーパーバイザー「平25.4より」 ・ KIPP心理オフィス カウンセラー（京都精神分析心理療法研究所（KIPP）精神分析的な心理療育家養成プログラム訓練生）「平24.8より」及び組織心理コンサルタント「平26.4より」
平成二十一～二十五（2009～2013）年度の主な研究成果等	（著書）
	（論文）
	（学会報告、学会活動） 1. 自主シンポジウム「危機的な状況における集団力動と治療者としての機能維持 ―若手から中堅への移行期にある臨床心理士が考えるIV―」（指定討論者）、平成25年8月、日本心理臨床学会第32回秋季大会、パシフィコ横浜 2. 分科会「親の老化が引き起こす葛藤を精神分析はどのように扱うのか ―日米文化差を踏まえた対人関係論的な考察―」（指定討論者）、平成25年12月、日本精神分析的な心理療法フォーラム学会第2回大会、京都文教大学 3. 分科会「学生相談に生かす対人関係／関係精神分析的視点 ―「playfulness」に注目して」（話題提供者）、平成25年12月、日本精神分析的な心理療法フォーラム学会第2回大会、京都文教大学
	（その他、エッセイ・翻訳・学術講演等） 事例発表： 1. 「温もりを求める空っぽな自分：解離と吸血衝動に苦しむ高校生男子との面接過程」、単独、平成22年2月、京都文教大学大学院心理臨床事例検討会分科会「教育」、京都文教大学 2. 「男性性をテーマに抱え、休退職から転職を目指す、アレキシシミア青年期男性の事例」、単独、平成24年2月、京都文教大学大学院心理臨床事例検討会分科会「産業」、京都文教大学 3. 「ケアワーカーからスーパーバイザーへ：児童福祉施設における臨床家の役割発達に関する事例」、単独、平成25年2月、京都文教大学大学院心理臨床事例検討会分科会「児童福祉」、京都文教大学 通訳： 1. 日本箱庭療法学会第23回大会、ワークショップ（国際箱庭学会（ISST）と共同開催）「発達障害スペクトラムの箱庭療法」通訳、平成21年11月、佛教大学 2. 日本精神分析的な心理療法フォーラム学会第2回大会、分科会「親の老化が引き起こす葛藤を精神分析はどのように扱うのか ―日米文化差を踏まえた対人関係論的な考察―」（通訳 R.シャピロ）、平成25年12月、京都文教大学
	（調査活動）
	（学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含）
	（学内活動）
平成二十一～二十五（2009～2013）年度の社会における活動	（自治体や企業における研修等の講師） 平成24年度より 社会福祉法人大阪水上隣保館児童心理療育施設ひびき職員研修講師「現在に至る」 平成24年 11月 滋賀県栗東市役所管理職研修（メンタルヘルス研修）、講義「職場ストレスとメンタルヘルスについて・組織の在り方の理解について・ラインケアについて」、実践ワーク「ブラインドウォーク・組織ストレスとラインケアに関する相互コンサルテーション」、於：同所

平成 26（2014）年度 教員活動報告書（4/4）

平成二十一年（二十五）（2009～2013）年度の社会における活動	（その他）	
	平成 7年 4月	京都コンピュータ学院（専修学校） 非常勤講師（「英語」「心理学」「認知心理学」）「平25.3まで」
	平成13年 4月	同志社大学文学部現代社会学部 嘱託講師（「パーソナル・コミュニケーション論」（コミュニケーション・社会心理学））「平23.9まで」
	平成22年 4月	1. 京都文教大学心理臨床センター臨床補佐「平23.3まで」 2. 京都精華大学人文学部 非常勤講師（「異文化間コミュニケーション」「文化心理学」）「平25.9まで」
	平成23年 7月	同志社大学カウンセリングセンター 留学生対応カウンセラー「現在に至る」
	平成24年 4月	追手門学院大学地域支援心理研究センター附属「心のクリニック」 非常勤相談員（臨床心理士）「平26.3まで」
	平成24年 8月	KIPP京都精神分析・心理療法研究所 訓練カウンセラー「現在に至る」
	平成25年 4月	1. 京都文教大学臨床心理学部 非常勤講師（「外国書講読Ⅰ」「外国書講読Ⅱ」「認知科学と臨床心理学」）（「発達心理学Ⅰ」「発達心理学Ⅱ」）「平26.3まで」 2. 社会福祉法人大阪水上隣保館児童心理療育施設ひびき スーパーバイザー「現在に至る」